

大阪大学大学院人文学研究科言語文化学専攻公開講座 LCセミナー2026:ことばと文化の多様性

言語文化学専攻では、平成14年度から毎夏開講してきた「教員のための英語リフレッシュ講座」を発展的に解消し、令和3年度から新たな公開講座「LC セミナー」をスタートさせました。LC は Language and Culture の頭文字で、本専攻の母体となった言語文化部の時代から親しまれてきた略称です。本講座の一番の目的は、これからのグローバル化社会の発展に必須である、最新の言語文化学の知見に触れる場を学内外の皆様に提供することです。令和8年度は「ことばと文化の多様性」と題して、表象文化論、コミュニケーション論、言語認知科学の各分野において第一線で活躍する本専攻の教員が、それぞれの専門分野の研究内容や研究成果についてわかりやすい言葉で解説いたします。講義を通して、広く「言語」と「文化」について一緒に考えてみませんか。本講座を受講する皆様に言語文化学という学問分野の面白さを体感していただくことができましたら大変幸いです。

■日 程 令和8年9月26日(土)13時00分～16時40分(予定)

■会 場 オンライン(Zoom)にて開催

■受 講 料 無料

■定 員 300名(先着順)

※定員に達した時点で人文学研究科言語文化学専攻HPに掲示します。

■受 付 期 間 8月10日(月)～9月24日(木)

■申 し 込 み 次のリンク先のフォームからお申し込みください。

<https://forms.cloud.microsoft/r/cBpZtKS49v>

■問い合わせ 大阪大学 大学院人文学研究科 豊中事務部庶務係

(E-mail: jibun-syomu@office.osaka-u.ac.jp TEL: 06-6850-5201)

■プログラム

司 会 今尾 康裕 教授

13:00～13:10 開会の挨拶

人文学研究科 言語文化学専攻長 越智 正男 教授

13:10～14:10 講義1: 関西弁を英訳する

—日本語・日本文学の多様性を目指して—

村上スミス・アンドリュース 教授

14:20～15:20 講義2: 複数形の故郷を生きる

—ディアスポラにおける言語・記憶・帰属をめぐって—

櫻間 瑞希 講師

15:30～16:30 講義3: 「物は言いよう」を言語学する

—フレーム意味論における意味理解の考え方とその実践—

中嶋 浩貴 准教授

16:30～16:40 閉会の挨拶

人文学研究科 言語文化学副専攻長 小杉 世 教授

※公開講座終了後、ブレイクアウトルームを設定して大学院入試に関するご質問にお答えいたします。

* 大学院人文学研究科の情報は以下のサイトでもご覧いただけます。

人文学研究科 HP

<https://www.hmt.osaka-u.ac.jp/>

人文学研究科 Facebook

<https://www.facebook.com/HmtOsakaUniversity/>

人文学研究科 X

https://x.com/ou_hmt_info

司会者・講師プロフィール & 講義内容

司会 今尾 康裕 第二言語教育学講座 教授

■プロフィール：米国カリフォルニア州立大学で博士号（応用言語学）を取得。専門は、言語テスト、コーパス言語学。著書に、『英語教育徹底リフレッシュ：グローバル化と21世紀型の教育』（共編著、開拓社、2017）、『人文学系学生のためのはじめての量的研究・質的研究』（分担執筆、ひつじ書房、2026）など。CasualConc、CasualTranscriber など、言語分析のためのアプリケーションを開発。

関西弁を英訳するー日本語・日本文学の多様性を目指してー 村上スミス・アンドリュース 表象文化論講座 教授

■プロフィール：博士（東洋研究）。専門は近現代日本文学、特に大阪に関連のある作家や作品の「大阪文学」。上司小剣「鱧の皮」英訳 "The Skin of the Pike Conger Eel" でウィリアム・F・シブリー記念翻訳賞（2013年）、宮本輝「泥の河」英訳 "Muddy River" でキョウコ・セルデン記念翻訳賞（2015年）。その他多数の大阪ゆかりの作家の短編、詩、エッセイを英訳し授業で留学生に読ませている。

■講義内容：文学作品の方言を翻訳するのにいくつかの方法があるけれど、どれも不十分だと言えます。かといって、方言を無視して標準的な言葉に訳せば原作の面白さを損なうし、翻訳文の読者の「異文化体験」を妨げてしまう…。では、例えば関西弁が含まれる作品を英訳するとき、どうすればいいのでしょうか。まずは方言その他の言語変種が文学作品においてどのような役割を果たすのかについて考えて、文学作品の重要な要素になり得ることを確認します。そして方言翻訳の方法とその具体例をいくつか紹介して検討します。講演者が試みた「大阪文学」作品の英訳より、方言翻訳の具体例も紹介します。東京中心の「日本・日本語・日本文学」のイメージを拓げるためにも、関西弁と関西文学を英訳する意義があると考えられます。

複数形の故郷を生きるーディアスポラにおける言語・記憶・帰属をめぐるー 櫻間 瑞希 コミュニケーション論講座 講師

■プロフィール：博士（社会科学）。言語社会学・文化人類学を専門分野とし、中央アジアにおける言語政策、世界各地のタタール人社会における移動と記憶のほか、近年では欧州のテュルク社会におけることばと文化の研究も。著書に『ニューエクスプレスプラス タタール語』（2022年）など。ほか主著論文多数。

■講義内容：タタールという、アジアとヨーロッパの境界に生きてきた人びとの経験を手がかりに、ディアスポラにおける言語・記憶・帰属のありようを考えます。その故郷は、いつもひとつとは限りません。複数のことば、複数の場所、複数の「わたし」を生きる時、人はそれらをきれいに切り分けることができるのでしょうか。それらを名づけることはいかなる意味をもつのでしょうか。むしろ、名づけられないまま、輪郭のあいまいなまま、あわいを生きることのなかにこそ、その経験の核心はあるのかもしれない。世界各地のタタール社会におけるフィールドワークから見えてきた、ことばと記憶のもつれあいについて、ともに考えてみたいと思います。

「物は言いよう」を言語学するーフレーム意味論における意味理解の考え方とその実践ー 中嶋 浩貴 言語認知科学講座 准教授

■プロフィール：神戸大学で博士号（学術）取得。専門は、認知言語学、英語学、特にフレーム意味論。論文に、「英語における語形成へのフレーム意味論的アプローチー植物名詞に由来する名詞転換動詞の研究ー」（2022、松本・小原（編）『フレーム意味論の貢献：動詞とその周辺』）、「語形成における言語フレームと認知フレームの接点ー英語における身体部位名詞由来 *cr* 名詞の事例研究ー」（2026、『日本認知言語学会論文集』第26巻）など。

■講義内容：夏休みも終わりにになると、次のような親子の会話が聞こえてきます。

親：学校の宿題、どこまで終わった？

子：もう半分まで終わったよ。

親：えっ、まだ半分！？

親と子で見ている宿題の進捗状況は同じであるはずなのに、なぜ親は子どもの発言を聞いて驚いたのでしょうか？この親と子のずれはどこから生じるのでしょうか？本講義では様々な実例を参照しながら、いかに言葉がそれを使った人の認識や解釈を反映しているか、また言葉を通して人が表現されていることがらをどのように理解するかについて、認知言語学や関連領域における「フレーム」という用語をキーワードに検討していきます。